



お客様の声

『パピーの頃から9年間使い続けているバランスアルファ』 健康で長生きを願う

9歳のミニチュアダックス(女の子)を飼っています。

パピーの時、ワクチン接種を受けに行った動物病院の先生から「バランスアルファ」を勧められました。その時は特に病気や困った症状がある訳ではなかったのですが、獣医師さんから「免疫力向上に効果があるので飲ませてみたら?」と勧められました。早速サンプルを取り寄せ、飲ませてみることにしました。初めは正直あまり信じていなかったのですが、9歳になった現在でも病気をすることなく毎日元気に過ごしています。他に特別なことはしていないので、「バランスアルファ」が免疫力向上に役立ってくれているのかな、と思っています。

パピーの頃からずっと一緒なので、少しでも長生きして欲しいです。最初は半信半疑で始めた「バランスアルファ」ですが、気がつけば9年間も愛用しています。今のまま元気に長生きして欲しいので、これからも続けていこうと思います。

(神奈川県 20代 K・M様)



飲用量の目安

病気や症状改善が目的の場合
体重1kgにつき1mlを
1日2~3回

健康維持が目的の場合
体重1kgにつき1mlを
1日1回

※左記の飲用量、飲回数を多く与えても害はありません。バランスアルファをペットに飲ませている飼い主様のお話によると、病気や症状改善が目的の場合は、多めに与えた方がバランスアルファの効果は早い時期に実感できることが多いようです。
※ペットがそのままでは飲まない場合は、飲み水(塩素の入った水道水は避けて下さい)に加えるか、ペットフードにご混ぜて与えても効果効能は変わりません。
※バランスアルファはどんな薬と併用しても副作用はありませんのでご安心下さい。(注意:60度以上に加熱することは避けて下さい)



ペットのすこやかな毎日のために。



500ml 1本
無料で進呈
します!

無料サンプルをお試し頂けます

☎ お電話 ☎ FAX

☎ 0120-76-5812

9時~17時 土日祝休
050からはじまる電話番号からは
03-3576-5811へ

🌐 インターネット 📧 郵便 でもお申し込み
頂けます!

株式会社高橋剛商会 〒170-0002 東京都豊島区巢鴨2-16-4 <http://www.balance-alpha.com/jp/>

バランスアルファ ペット通信

第14号

ペットの体調をととのえる



今月の
テーマ

ペットの夏バテ対策

こんにちは。今年の夏も猛暑でしたね。夏は日が長かったり、楽しいイベントがたくさんあったりと、明るい気分になる季節でもあります。その一方、暑さで食欲がいつものように湧かなかったり、身体がだるかったり…体調を崩しやすい季節でもあります。暑さで睡眠不足が続き、「夏バテかな?」と感じる方もたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。

日本の夏は気温だけでなく、湿度も非常に高いのでペットにとって日本の夏の暑さはとても大変です。人間は汗をかくことで体温調節をしていますが、犬や猫は汗をかくことができず、また全身が毛で覆われているため、熱が身体にもってしまいます。もし自分が夏の暑さと湿気の中、ペットのように毛皮を着て汗をかくこともできなかったら…と想像すると、ペットにとってどのくらい夏が辛い季節なのか容易に感じる事ができますよね。また、この時期は毎日の暑さと戦ってきて、次第に疲れが身体に蓄積されてくる時期。ペットも人間と同じように夏バテになることがあり、夏バテから体調を崩す子もいるようです。まだまだ残暑が続きますので、秋を元気に迎えるためにできるだけ夏疲れが残らないようケアしてあげましょう!

犬や猫の夏バテの症状は以下のような症状です

- <ペットの夏バテ症状> ••••
- ・食欲低下
- ・散歩を嫌がる
- ・寝ている時間が多くなる
- ・元気がなく、だるそうにぐったりしている
- ・体力が低下して動きが緩慢になる
- ・下痢や嘔吐、軟便、排泄行動が乱れる
- ・呼びかけに反応しなくなる

9月いっぱいまでは、まだ暑い日が続きます。留守番させる時など、飼い主さんがペットの様子を見てあげられない時は、エアコンをつけて外出しましょう。ただし冷え過ぎもよくないので、設定温度を28℃くらいにするか、ドライにするなど、エアコンの設定をしてから出かけるようにしましょう。また、少しでも室温が上がるのを防ぐために、昼間に家を留守にするときはカーテンを閉めていきましょう。水を入れて凍らせたペットボトルをタオルに包んで置いておいてあげると、万が一エアコンが止まってしまった時などに、涼を取ることができます。(ペットボトルをかじってしまう子には金属製の湯たんぽに氷水を入れたものでもよいでしょう。) エアコンが苦手な犬猫もいるので直接冷風が当たらないようにするなど工夫してあげましょう。夏バテしやすいのは、子供の犬猫、高齢の犬猫、肥満気味の犬猫。これらのペットがいる場合は特に注意が必要です。



犬

犬は汗をかいて体温を下げる事ができないかわりに、「ハアハア」と舌を出しながら荒い呼吸をすること(パンティング)で口から肺までの間の水分を蒸発させて体温を下げます。気温が高ければ高いほど、このパンティングによって体力を消耗してしまうので、犬は夏バテになりやすいのです。猛暑の中、日光で熱されたアスファルトの上を歩かされるのは、犬にとってとても辛いこと。アスファルトの熱は真夏だと80℃以上になることもあります。日が沈んだ夕方でも地面は熱をもっているため、散歩の時間を変えましょう。早朝なら5時から6時の間、夜は21時以降がよいでしょう。目安はご自分の手を地面にあてて、冷たいと感じる時間帯が犬にとって一番良い散歩の時間帯です。散歩のルートも日の当たる所や、アスファルトは避け、できるだけ土や砂のある場所を歩かせましょう。また、若く体力がありあまっている犬であれば運動は必要ですが、老犬や身体が弱っている犬の場合は夏場無理に運動をさせる必要はありません。涼しい時間帯に少しか散歩させたり外の空気を吸わせるだけにして、身体に負担がかからないように注意してあげましょう。



それから、いつも新鮮なお水が飲めるようにすることも大切。ただし水を飲み過ぎると胃腸にさらに負担をかけてしまうので、できるだけ食事から水分を摂れるようにトマト、きゅうり、レタスなどをおやつに与えてみてください。ドライフードに缶フードをプラスするだけでも簡単に水分が摂れます。食欲不振や下痢、軟便の症状がある時は、食事と飲み物を工夫してあげてください。食欲がない時は、フードにささみなどのお肉をトッピングすると匂いに誘われ食べてくれることもあります。また、犬にとってのおいしさは匂いによって左右されるので、フードにお湯や温かいスープをかけて匂いがたつようにすることで犬の食欲が高まります。

猫

猫は犬よりは暑さに強いと言われていて、しかし、最近の飼い猫は暑さがそこまで得意ではないようです。猫は涼しい場所を見つけて、なるべく動かずじっとしていることで暑さをしのいでいます。激しい運動をしていないのに猫が犬のようにハアハアと呼吸を荒くしている時は熱中症の可能性がありますので、一刻も早く体温を下げるようにしてあげて、すぐに獣医さんに診てもらいましょう。猫はちょっと変わった温度感覚の持ち主。温度に対してとても敏感なのは、なんと「鼻」なのです。それに対して、鼻以外の部位は少し鈍感です。温度変化は6~9℃という変化がなければ気づかず、体表温度が51~54℃になるまで我慢できるそうです。しかし温度変化に鈍感だからといって熱中症や夏バテにならないわけではありません。むしろ温度変化に鈍感だからこそ飼い主さんが気づいてあげなければいけないのです。エアコンが苦手な猫の場合は、エアコンがきいていない場所へ逃げられるようにしておいてあげると良いでしょう。

留守中はケージの中でお留守番させる飼い主さんもいらっしゃると思いますが、猫は上下運動が活発な動物なので、自分で移動して快適な場所できつろげるようになるべく自由に行動させるようにしてあげてくださいね。猫が夏バテで小食になってしまったら、食欲が回復するまで高カロリーのフードに変えてみるのも一つの方法です。ドライフードより缶フードの方がカロリーが高いので変えてみるのもよいでしょう。水をあまり飲んでもくれない時は、スプタイプや水煮タイプ・ゼリータイプのフードにすることで水分摂取量を増やすこともできます。また猫がいつでもどこでも水を飲めるよう水飲み場を増やしてみよう。



ペットは人間と違って痛みを表に出さない動物。少しでも様子がおかしいと感じたら早めに獣医師に相談しましょう。



「命」に寄り添う ~ とうご動物病院の取り組みから ~ 第2回 “飼い主さん” に寄り添う

* “わかりやすい” という優しさ

向後先生 飼い主さんの中には、「前の先生の説明が難しく分らなかった」とおっしゃる方や、誤解をされているケースが少なくありません。治療云々の前に正しい情報をわかりやすく伝えることが大切と考えています。まず飼い主さんに現状を理解して頂いてから、複数の選択肢をご提示して、選んでもらうようにしています。

* 解釈を変えることで心が楽になる

最近の飼い主さんの傾向として何かありますか?
向後先生 ネット社会なのでネットで調べる方がとても多いです。ネットで解決すればいいのですが、大概はネットを見ることで逆に不安になっていることが多いんですよ。なので、ネットに頼りすぎるとはどうか?と。ネットでの情報はあくまで他のペットの事例であって、皆さんのペットに該当するかどうかは分かりませんから。

あとは、核家族化していて、ご夫婦でペットを飼っているとペットが自分の子供代わりになり愛情が過度になってしまっている場合もあります。心配し過ぎて却ってそれがペットの負担になっているのでは?と。飼い主さんの気持ちは想像以上にペットに伝わります。ペットが病気になるのは、飼い主さんが悪いわけではなく、ある程度そういう「運命」を持って生まれてきたというのもあると思うので、そのように伝えることもあります。

診察や治療だけでなく、「心の相談室」でのカウンセリングなどで飼い主さんの気持ちを少しでも楽にしてあげられたらと考えています。もともと心理学をやっていたので、人の心を癒したい、問題を解決する手助けをしたいという思いが根底にあるのかもしれません。

* 飼い主さんとのコミュニケーションで 発見できる治療の糸口

飼い主さんとのコミュニケーションについてはどのように考えておられますか?

向後先生 動物病院では、直接的な患者ではない「飼い主」という存在が関わっています。飼い主さんとコミュニケーションを取りながら心の距離を縮めていくと、話して下さる情報の中で「ああ、それでこうなっているんだな」と分かることがよくあります。当院のスタッフを採用する時に、最近では「動物は好きだけど人間関係が苦手」という方も多のですが、そうではなくて結局飼い主さんと上手く接することができなければ、情報も得られないし、良い関係性も築けません。なので、コミュニケーション能力が高く、接客が好きな方を採用するようにしていますね。

とうご動物病院附属TAMA統合医療センターの”抗がん剤を使わない動物のがん治療”のホームページで「バランスアルファ」が紹介されています。

東京都多摩市にあるとうご動物病院。
西洋医学をベースに、鍼治療・漢方などの東洋医学やホリスティック医療を積極的に取り入れた独自の治療を行い、病気になってしまったペットでも最善の状態でご過ごせるよう、様々な治療法を提案されています。



通りに面した、明るくて入りやすいクリニック。オープンカフェのような待合室はクリニックにいることを忘れさせてくれます。

